

進化生物学研究所 バイオリウム



「生きもの空間」バイオリウム

バイオ(BIO)は「生きもの」、リウム(RIUM)は「空間」。動物園、植物園、水族館といったくりを取り去った「生きもの空間」、それがバイオリウムです。

ここには進化生物学研究所が世界各地を調査し収集した貴重な動植物や資源植物のコレクションが一堂に集められ、珍しい生きものたちの姿を地域別にご覧になれる学びと憩いの空間です。

インターネットなどで居ながらにして多くの情報が手に入る時代ですが、実際の生きものに接し、その不思議や魅力に直接ふれることで、新たな発見や感動とともに生きものに対する理解が一層深まることでしょう。

一般財団法人 進化生物学研究所とは
生きた動植物や実物の標本を収集し研究の中心におく日本では珍しい研究所。1950(昭和25)年に東京農業大学農学科教授・近藤典生博士が設立した東京農業大学育種学研究所を母体とし、1974(昭和49)年に財団法人として認可を受けました。

Tour バイオリウムツアーに参加しませんか？

進化生物学研究所の研究員が、バイオリウムや時に博物館の一部をご案内します。



開催日時

研究員の都合により不定期開催となりますので、必ず事前にお問い合わせください。

料金

大人(高校生以上) 500円
子供(小中学生) 250円

お申込み&お問い合わせ

1~10名程度の少人数の場合は、希望日の2-3日前までに、また10~40名程度の団体の場合には、少なくとも1週間前までに事務局にご相談の上、ご予約をお願いいたします。

Tel.03-3420-7449

●ミニ・ミュージアム

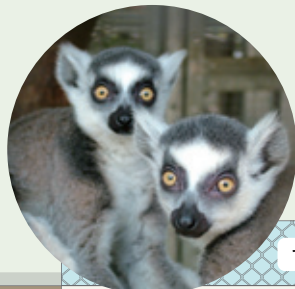
研究所の標本コレクション。変わった生き物の生体、進化や生物多様性などを中心に随時変化するミニ展示施設。



ミニ・ミュージアム

●ワオレムールの親子

レムール類はマダガスカル固有の原猿類で、その種類は100種とも。1964年の学術調査で導入された子孫を中心に現在4種60頭ほどが系統維持されていて、1ヶ所でこれだけの種類と個体数が見られるのは日本ではここだけです。



マダガスカルの原猿類(レムール類)

●ケヅメリクガメ

アフリカ産で、成体の体重は約60kgにもなります。基本的に草食性です。バイオリウム内では、いつもはレムールの前で飼われています。

探してね!
散歩中のケヅメリクガメに会えるかも?!



ニチニチソウ(マダガスカルの野生種)



⑤ アフリカの植物

⑥ オーストラリアのパオバブ



(非常口)
※緊急時のみ使用

●たる型サボテン「キンシャチ」

メキシコのキンシャチ類は、その大きさや風貌からサボテンの代表的なひとつです。ここではサボテンの祖先型とも言える葉のあるモククリンから、湿潤な熱帯林に生育するゲッカビジン(月下美人)にいたるまでのサボテン進化の流れをご覧いただけます。サボテンの祖先が木であった証拠の材も展示しています。



●鬼に金棒「カナボウノキ」

ディディエリア科はマダガスカルにしかない特産の科で、南部乾燥地の不思議な景観の森の主役です。トゲだらけの幹から直接葉が全面に出る姿や葉のないジグザグの枝など変わった形の多肉植物です。当研究所には全11種のうち10種があり、世界でもまれなコレクションです。



●シャンプーの木「ウンカリーナ」

水に浸した葉からトロリと出てくる粘液でシャンプーすれば、髪はすっきりサッパリ。マダガスカルだけにしかないゴマ科の木で、当研究所では全14種を集めています。



① 熱帯果樹

④ マダガスカルの植物



ネベンテス

② 水辺の植物

⑤ 熱帯雨林の植物

世界最大の花ラフレシアの模型



主な植物

① 熱帯果樹

スターフルーツ
ジャボチカバ
アボカド

② 水辺の植物

ティフオノドルム
ビョウヤナギ
シュロガヤツリ
タビビノキモドキ

③ 熱帯雨林の植物

スナバコノキ
タロイモ各種
ネベンテス
オオタニワタリ
ヤエヤマオオタニワタリ
トレベシア パマルタ

④ マダガスカルの植物

ザーバオバブ
ディディエリア マダガスカリエンス
ジグザグノキ
アルオウディア プロセラ
パキボディウム ラメレイ
モリンガ ドウルガルディ
ユーフォルビア ステノクラータ
カラコエ類
サンカクヤシ

⑤ アフリカの植物

ソテツ類
リュウケツジュ
アエオニウム類
ハオルシア類
サンセベリア類
ユーフォルビア ポイソニー
アロエ ディコトマ

⑥ オーストラリアのパオバブ

⑦ 中南米の多肉植物

キンシャチ
サクラキリン
モククリン
パキセレウス類
ゲッカビジン
ウチワサボテンの材
エケベリア類

⑧ 石油植物

ホホバ
コパイフェラ

「食と農」の博物館
連絡口